

受験番号		氏名	
------	--	----	--

トヨタ看護専門学校

平成三十一年度 推薦・社会人入学試験問題（小論文） 全二頁中二頁

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

健康長寿社会を目指し、全国の大学・国立研究所などの研究者が分析を進めている日本老年学的評価研究プロジェクトが、六五歳以上で要介護認定を受けていない人二万八千二百二人を四年間にわたって追跡調査したところ、その間に死亡した男性高齢者は、高所得の人が一・二パーセントなのに対して、低所得の人はその三倍の三四・六パーセントに及んでいるという衝撃的な調査を二〇〇八年に発表した。

所得で人の死が左右されるだけではない。住んでいる地域や雇用形態、家族構成の違いで病気になったり、寿命が短くなったりしてしまうという問題が、最近、日本社会で深刻化しつつあることがわかってきた。

たとえば、二〇一四年に東京都が発表した足立区と杉並区の六五歳健康寿命（六五歳の人が介護を必要とせず、健康で日常生活を支障なく送ることができる平均寿命）を見てみると、杉並区が男性で八三・一九歳、女性が八六・〇六歳なのに対し、足立区は男性八一・四四歳、女性八四・四二歳と、二歳近い差があることがわかった。さらに全国の健康寿命になると、一位は男女ともに山梨県だが、最下位は男性では徳島県、女性では大阪府となり、その差は三歳以上にもなっている。

また、全日本民主医療機関連合会（民医連）の二〇一四年の調査によると、雇用形態の違いが疾病にも影響することがわかっている。たとえば、非正規雇用の人は正社員よりも、糖尿病の合併症である糖尿病網膜症を悪化させる割合が一・五倍高いというデータがあるのだ。

こうした社会問題は「健康格差」と呼ばれ、いま私たちの身の回りに確実に及び寄っている。「健康格差」は、健康に対する自己管理能力の低さが原因ではなく、生まれ育った家庭環境や地域、就いた職業や所得などが原因で生じた病気のリスクや寿命など、私たち個人の健康状態に気づかぬうちに格差が生まれてしまうことを指す。

背景にあるのは、「失われた二〇年」に代表される日本社会の構造的な変化だ。大きな要因としてあげられるのは、非正規雇用の増大などの労働環境の激変と、それにもなつて生じる収入格差の拡大である。正規雇用に比べ、非正規雇用は不安定で賃金も著しく低い。たとえば、毎月勤労統計調査によると、一般労働者の給与が三四・三万円であるのに対してパートタイム労働者は九・五万円と三分の一にも満たない。賞与もなければ、賃金のベースアップもない。こうした雇用格差によつてジリジリと生じてくる所得格差が、日々の生活レベルや子どもの教育環境などの格差に連鎖し、健康も脅かしつつある。

「健康格差」は、何も特定の人に限った問題ではない。現役、子ども、高齢者、すべての世代で深刻化している。まず現役世代では、非正規雇用の間で、糖尿病の問題が深刻化している。正社員との比較では、糖尿病合併症リスクは五割増にもなるという調査結果もある。

また、子どもたちの間では、貧困家庭を中心に肥満が広がっている。健康を維持するためにはバランスのとれた食生活を送ることが必要だが、家計に余裕のない家庭では、単価の高い野菜や果物などを購入できずに、比較的安い炭水化物を過剰に摂取することが多い。そのため、給食がなくなる夏休みなどに食生活が乱れて、休み中に肥満化する子どもが増えているという。

そして高齢者でも、「下流老人」と言われる低所得の人ほど、お金がないため医療機関の受診を控えており、その結果は健康状態に如実に表れていることがわかっている。「健康格差」研究の第一人者である国立長寿医療研究センター部長で千葉大学の近藤克則教授の研究によれば、具合が悪いのに医療機関の受診を控えたことがあると答えた高齢者は、年収三〇〇万円以上の方が九・三パーセントなのに対して、年収一五〇万円未満の人は一三・三パーセント。その理由として、年収三〇〇万円以上の方は「待ち時間」をあげた人が最も多かったが、年収一五〇万円未満の方は「費用」をあげる人が最も多くなっていた。

さらに、住む地域によつても「健康格差」があることがわかってきた。それが「がん」へのかかりやすさだ。国立がん研究センターが都道府県ごとに、がんと診断された人口一〇万人あたりの患者数（罹患率）をまとめた調査によると、胃がんは男女ともに秋田県が最も高く、肺がんは男性が和歌山県、女性は石川県がワースト一位、乳がんは東京都が突出していることがわかった。一部のがんは、地域によつて異なる生活習慣が、がんへのかかりやすさを左右していると考えられている。

バランスのとれた食生活と適度の休息さえとれていれば健康であつたはずの人が、ここまで列挙した理由が原因で健康を損ない短命に終わるとしたら、大きな問題だ。バブル崩壊後の社会構造の変化が、ついに国民の健康にまで影響を及ぼしてきたという意味で、「健康格差」は日本社会にとつて看過することができない深刻な問題になってきた。

（NHKスペシャル取材班『健康格差 あなたの寿命は社会が決める』講談社現代新書（二〇一七年）による）

問一 ここでいう「健康格差」とはどのようなものか。七〇字以内で説明せよ。（句読点も一字に数える）

問二 右の文章に対するあなたの意見・感想を、具体例をまじえて述べよ。（六百字以上八百字以内）（句読点も一字に数える）